

「漁連の魚屋」が受賞報告会を開催

スペース（東京都中央区、佐々木靖浩社長）がプロデュースした鮮魚店「漁連の魚屋」（兵庫県加古川市）が「第41回ディスプレイ産業賞（2022）」など複数のデザイン賞を受賞し、受賞報告会・内覧会をこのほど開催した。



田中ディレクター（左）と突々専務

スペースの田中三弘ブランディングディレクターは「魅力を伝える一番の近道は食べてもらうこと。魚食で人とのつながりを作り、コミュニケーションの場を創出する店をイメージした」と説明。店舗壁面にはヒラメやアカガレイ、シズなど加古川近海で獲れる魚が68種類描かれている。

「多くのお客様が魚の絵をきっかけに会話し、新たな発見をして『魚が大好きになる場所』にしたい」と語った。

「漁連の魚屋」事業を展開する兵庫県漁連の突々淳専務は「地域の特徴を取り込んだ店舗はお客様にも支持されることを改めて感じた。多くのお客様に恵まれるだけでなく、荣誉ある賞を複数頂けたことを感謝している」



鮮魚店「漁連の魚屋」の店内

と語った。

デザインについても「壁面の青色は海中を表現し、下に行くほど濃くなるグラデーション

。食べ物を扱う店の内装にブルー系は珍しいが、『海を感じてもらう場所』『港とつながる場所』をイメージすると、『紺碧の青』は欠かせない」と高く評価した。